

対話型鑑賞教育推進事業 ご協力のお願い

(公財)船橋市文化・スポーツ公社
船橋市民ギャラリー
令和5年6月1日版

対話型鑑賞 とは

1980年代にニューヨーク近代美術館 MoMA で開発され多くの美術館で実践されている人気の教育プログラム。
作品についての情報や解釈を専門家や教師が一方向的に伝えるのではなく、鑑賞者自身の思いを尊重し、グループでの対話を通して作品を味わっていく鑑賞法。VTC(ビジュアル・シンキング・カリキュラム)。その後、VTS(ビジュアル・シンキング・ストラテジーズ)として学校教育を軸とした鑑賞教育に発展しています。

対話型鑑賞 教育の方法

児童を3~5人の少人数のグループに分け、
アートカードを使って } 「見て」、「考えて」、
美術作品を使って } 「対話」しながら鑑賞します

図工科の内容
「表現」と「鑑賞」

対話型鑑賞 教育の効果

作品を知る → 作品をみる ... 鑑賞法の転換
美術作品に向き合う態度の転換
鑑賞力、鑑賞の楽しさ
観察力、批判的思考力、言語能力、コミュニケーション能力
みる、考える、話す、聴く 自ら問い、考え続ける力
学ぶ力、学ぶ意欲 「主体的・対話的で深い学び」

他教科への
広がりが

1

ファシリテーターについて

- ・小学校でアートカードを使用したゲームをリードして、子供たちの対話を引き出し、つなぎ、広げる役割
- ・研修あり(24時間)
- ・美術の専門知識は不要
- ・教員及び学校での勤務経験のある方が望ましい
- ・美術系大学で対話型鑑賞を学ぶ学生
- ・教育にかかわることについて意欲や関心がある学生(将来教員を目指している学生)
- ・これらと同じような資質や能力を持ち合わせている方



人数

令和4年度 19人
令和5年度 25名程度募集
令和6・7年度 25名程度募集

待遇

- ・公社の臨時職員として雇用します。詳しくは募集案内で。
- ・活動回数(目安)
令和5年度 研修 24時間(座学+実習)

3

船橋市における対話型鑑賞教育：学校での実施について

対話型鑑賞 教育の方法

小学校、特別支援学校小学部	中学校
アートカードを使って、楽しくみる、考える、話す、聞く体験	美術作品を使ってみる、考える、話す、聞く活動をととして美術鑑賞の楽しみ方
学級担任、 ファシリテーター	美術科教師、学芸員

将来的に小学校・特別支援学校での全校展開を目指し、検討していきます。

昨年度
ファシリテーター養成
対話型鑑賞教育3校で実施

令和5年度
ファシリテーター養成
対話型鑑賞教育10校で実施予定

令和6年度	令和7年度
ファシリテーター養成	ファシリテーター養成
対話型鑑賞教育25校・特別支援学校で実施予定	対話型鑑賞教育55校・特別支援学校で実施予定

2

これからの日程(令和5年度)

- 4月 推薦依頼
- 5月 募集開始
- 6月 ↓ 説明会開催(7/18)、応募用紙配付
- 7月
- 8月
- 9月 募集締め切り
- 10月 研修開始
(10月~2月 6日間24時間)
①10月②11月
③④11月に研修の一環で実習(2校に参加)
⑤12月⑥2月 ※日付は未定
- 11月
- 12月
- 1月 ↓
- 2月 研修終了
次年度の学校派遣日程調整



船橋市版アートカード(一部)

【お問い合わせ、推薦のご連絡】
船橋市民ギャラリー 齊藤浩憲
電話 047-420-2111
FAX 047-420-2112
Eメール
soujou@f-bunspo.or.jp

4